



## 安全データシート (SDS)

### 1 化学品及び会社情報

#### 化学品の名称

製品名	Immersion Oil Type N
製品コード	MXA22202 : 8cc MXA22203 : 50cc MXA22204 : 480cc

#### 会社情報

製造会社名	Cargille Laboratories
住所	55 Commerce Road Cedar Grove, NJ 07009-1289 USA
販売会社名	株式会社ニコン
担当部署	ヘルスケア事業部
住所	〒244-8533 神奈川県横浜市栄区长尾台町 471 横浜製作所
電話番号	045-853-8608
Fax 番号	045-853-8485
電子メールアドレス	Msqa.Manager@nikon.com
緊急連絡電話番号	045-853-8608

#### 推奨用途及び使用上の制限

顕微鏡 油浸系対物レンズのイマージョンオイル

### 2 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理化学的危険性 分類できない

#### 健康に対する有害性

皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分 2
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (気道刺激性)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (肝臓)

#### 環境に対する有害性

水生環境有害性 (長期間) 区分 1

## GHS ラベル要素 絵表示



### 注意喚起語 危険有害性情報

警告

H315: 皮膚刺激

H335: 呼吸器への刺激のおそれ

H373: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（肝臓）の障害のおそれ

H410: 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

### 注意書き

[安全対策]

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

取扱後はよく手を洗うこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

環境への放出を避けること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[応急処置]

皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

漏出物を回収すること。

[保管（貯蔵）]

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

### 他の危険有害性 情報なし



### 重要な徴候及び想定される非常事態の概要

皮膚刺激  
呼吸器への刺激のおそれ  
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（肝臓）の障害のおそれ

## 3 組成及び成分情報

### 化学物質・混合物の区別

混合物

### 組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
企業機密	-	-	25～50
水素化テルフェニル	企業機密	企業機密	25～50
企業機密	-	-	25～50
ターフェニル	企業機密	企業機密	1～2.5

## 4 応急措置

### ばく露経路による応急措置

吸入した場合  
新鮮な空気を供給し、症状が続く場合は、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合  
直ちに多量の水と石鹼で洗うこと。  
皮膚の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。

眼に入った場合  
コンタクトレンズを着用している場合は外すこと。  
眼を開けたまま、流水で数分間洗い流すこと。症状が続く場合には、医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合  
口をすすぐこと。多量の水を飲ませること。  
吐き出させないこと。直ちに医師の診断/手当てを受けること。

### 予想される急性症状

摂取した場合、胃腸の障害を起こす。  
皮膚刺激  
呼吸器への刺激のおそれ

### 遅発性症状の最も重要な徴候症状

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（肝臓）の障害のおそれ

### 応急措置をする者の保護

情報なし



### 医師に対する特別な注意事項

医師の診断が必要な場合、製品の容器やラベルを見せること。

---

## 5 火災時の措置

---

### 適切な消火剤

泡消火剤、粉末消火剤、ガス状消火剤、二酸化炭素、散水又は水噴霧

### 使ってはならない消火剤

棒状注入

### 特有の危険有害性

加熱時又は火災時に有毒ガスが発生する可能性がある。

### 特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。  
延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。  
消火活動は風上から行う。  
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。

### 消火を行う者の保護

自給式の呼吸器用保護具を着用する。  
全身保護衣を着用する。

---

## 6 漏出時の措置

---

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

保護具を着用する。  
保護具を着用していない人を遠ざける。  
十分な換気を行う。

### 環境に対する注意事項

排水設備、地上水及び地下水へ流入させないこと。  
水路又は下水道に流れ出た場合は、関係機関に連絡すること。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

砂、珪藻土、酸結合剤、万能結合剤、おがくずなどで吸収し、適切な空容器に回収する。



## 7 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策	特に必要なし
安全取扱注意事項	密閉した場所での飛散や噴霧を避ける。
接触回避	特に必要なし
衛生対策	食品、飲料、飼料から離すこと。 汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。 休憩前と作業終了時に手を洗うこと。

### 保管

技術的対策	特に必要なし
混触禁止物質	酸化剤、強酸、強塩基から離して保管する。
保管条件	高温、着火源、炎の近くでの保管は避ける。 換気の良い冷暗所に保管する。 食品から離して保管する。 保管温度：18～32℃
容器包装材料	容器を密閉すること。 破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

## 8 ばく露防止及び保護措置

### 管理濃度

情報なし

### 許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

ACGIH TLV-TWA (2017)	0.5 ppm, 4.9 mg/m <sup>3</sup> （水素化テルフェニル）
ACGIH TLV-STEL (2017)	0.53 ppm（天井値）、5 mg/m <sup>3</sup> （天井値）（ターフェニル）
日本産業衛生学会（2016）	該当しない

### 設備対策

化学薬品を取り扱う時は、一般的な予防措置を守ること。  
ガス／フューム／エアロゾルを吸入しない。  
眼や皮膚との接触を避けること。

### 保護具

呼吸用保護具	通常の使用条件下では必要はない。
手の保護具	不透過性の保護手袋を着用すること。
眼の保護具	保護眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	保護衣を着用すること。



## 9 物理的及び化学的性質

外観（物理化学的状態、形状、色など）	無色～淡黄色油性液体
臭い	微臭
臭いの閾値	情報なし
pH	該当しない
融点・凝固点	0°C
沸点、初留点及び沸騰範囲	340°C (1 atm/1.0132 bar)
引火点	163°C (Open Cup)
蒸発速度	< 1.0 (水=1.0)
燃焼性	該当しない
燃焼範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	< 0.133 hPa (< 0.1 mm Hg)
蒸気密度	情報なし
比重	密度：0.923 g/cm <sup>3</sup> (25°C)
溶解度	水：混和しない。混ざりにくい。
n-オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし
粘度	動的粘度 (23°C)：> 100 cSt 動粘性率 (40°C)：> 20.5 mm <sup>2</sup> /sec (DIN 53211/4)

## 10 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	反応性：情報なし 化学的安定性：常温常圧下で安定。
危険有害反応可能性	引火点以上に加熱した場合、空気中で爆発性混合物を形成することがある。
避けるべき条件	過度の加熱 酸化剤から離して保管すること。
混触危険物質	強酸化剤と反応する。 強酸やアルカリと反応する。
危険有害な分解生成物	火災の場合のみ：一酸化炭素、二酸化炭素



## 11 有害性情報

### 製品の有害性情報

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

皮膚刺激性を起こす。

### 成分の有害性情報

#### 水素化テルフェニル

急性毒性（経口）

ラット LD<sub>50</sub> = 6,600 mg/kg ~ 17,500 mg/kg

急性毒性（経皮）

ウサギ LD<sub>50</sub> > 2,000 mg/kg (OECD TG 402、GLP)

急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）

ラット 4時間 LC<sub>50</sub> > 4.7 mg/L

ラット 4時間 LC<sub>50</sub> > 4.3 mg/L (OECD TG 403、GLP)

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

ウサギの皮膚に「中等度の刺激あり」と報告されている。ヒトについて、エアロゾルを吸入すると「上気道を刺激及び吐き気症状」との記述、また、ラットを用いた急性吸入暴露試験で「気道を刺激する」との記述がある。なお、ラットを用いた急性経口毒性試験 (OECD TG 401、GLP) において、10,000 mg/kg で、「一般所見で、自発運動の抑制、下痢、糞尿による被毛の汚れがみられたが、剖検所見は全ての動物で正常である」旨の記述がある。また、「短期ばく露の影響：眼、皮膚、気道を刺激する」との記述がある。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

ウサギを用いた 21 日間経皮投与試験 (International Research and Development Corp. method、GLP) で、「2,000 mg/kg で、全身毒性なし」との記述があり、ラットを用いた 90 日間経口投与試験 (OECD TG 408、GLP) において「肝臓、腎臓及び副腎（雌のみ）重量増加、雌動物の体重減少、組織病理学的検査では本物質投与に関わる毒性影響なし」との記述がある。また、ラットを用いた 90 日間エアロゾル吸入暴露試験 (OECD TG 413、GLP) で、「体重減少、肝重量増加及び色素涙」との記述、ラットを用いた 182 日間エアロゾル吸入暴露試験 (Industrial Biotest Laboratory, Inc. method) で、「SGOT、SAP 及び SGPT の上昇、BUN の減少、及び肝重量増加」の記述がある。

#### ターフェニル

急性毒性（経口）

ラット LD<sub>50</sub> = 7,500 mg/kg

急性毒性（経皮）

ウサギ LD<sub>50</sub> > 12,500 mg/kg



## 12 環境影響情報

### 製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

### 成分の環境影響情報

#### ターフェニル

水生環境急性有害性	情報なし
水生環境慢性有害性	長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

## 13 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

家庭ごみと一緒に廃棄してはならない。  
製品が下水道に排出しないようにすること。  
廃棄においては、関連法規制並びに地方自治体の基準に従うこと。

### 汚染容器及び包装

関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

## 14 輸送上の注意

### 国際規制

陸上輸送（ADR/RIDの規定に従う）

国連番号	3082
品名	環境有害物質、液体、他に品名が明示されていないもの (ターフェニル)
国連分類	9
容器等級	III





## 海上輸送（IMOの規定に従う）

国連番号	3082
品名	環境有害物質、液体、他に品名が明示されていないもの (ターフェニル)
国連分類	9
容器等級	III
海洋汚染物質	該当
IBC コード	該当しない

## 航空輸送（ICAO/IATAの規定に従う）

国連番号	3082
品名	環境有害物質、液体、他に品名が明示されていないもの (ターフェニル)
国連分類	9
容器等級	III

## 国内規制

陸上規制情報	消防法に従う。
海上規制情報	船舶安全法に従う。
海洋汚染物質	該当する。
航空規制情報	航空法に従う。

## 緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号

171

## 特別の安全対策：

液体の場合は5 L以下、固形物の場合は5 kg以下の正味量を含む単一包装又は組合せ包装で輸送される場合は規制されない。

---

**15 適用法令**

---

化学物質審査規制法	監視化学物質（水素化テルフェニル）
化学物質排出把握管理促進法	第1種指定化学物質（水素化テルフェニル）（1質量%以上を含有する製品）
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物（テルフェニル） （1重量%以上を含有する製剤その他の物） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（テルフェニル） （1重量%以上を含有する製剤その他の物）
消防法	第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体
海洋汚染防止法	有害液体物質（Y類物質）（ポリブテン）
航空法	環境有害物質（液体）



船舶安全法

外国為替及び外国貿易法

有害性物質（国連番号 3082 環境有害物質（液体））

輸出貿易管理令別表第 1 の 16 の項（環式炭化水素）

---

## 16 その他の情報

---

### 参考文献

NITE GHS 分類結果一覧（2017）

日本産業衛生学会（2016）許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2017) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2012 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。